

# 保護者参加型のスポーツ遊び教室に対するイメージの変化

山田悟史（静岡産業大学経営学部）・館俊樹（静岡産業大学経営学部）  
中西健一郎（東海大学国際文化学部）・小澤治夫（東海大学スポーツ医科学研究所）

Image change of before and after guardian that takes part in “parent-child play sports”.

Satoshi YAMADA, Toshiki TACHI,  
Kenichiro NAKANISHI and Haruo OZAWA

## Abstract

The purpose of this study was to investigate image change of before and after guardian that takes part in “parent-child play sports”. The subject of the analysis were 25 guardian that takes part in “parent-child play sports” at I campus of S university. The results are follows :

1. Image of the guardian changes to positive by experience of “parent-child play sports”.
2. The guardians felt that they had more time to play with their childre
3. The guardians have come to feel that playing with children has become more pleasant.
4. Parents felt that how to play with children changed

## 1. はじめに

未就園児（3歳頃）まではベビーヨガや親子ダンス、親子体操、親子水泳など保護者の参加を前提とする運動遊びの教室がほとんどである。しかし、幼児も年中くらい（5歳頃）になってくると親子で参加する運動あそび教室は探さない見つからないほど急激に減ってしまう。保護者としてはその時間預かってもらいたいという気持ちも持つ人もいれば、保護者参加型が少ない現状に「まあそんなもの」と思っている人もいると思われる。また教室の開催者側も親のニーズに応えるとどうしても子供だけの参加の教室にならざるを得ないのだろう。実際、保護者参加の教室は参加者が集まりにくいという話も聞くと、筆者もそう感じる事が少なくない。そう考えると、教室で預かってもらいたいという保護者が多数なのかもしれない。

保護者参加型の教室で教えたり、他の指導者が行う指導を見てきりした中で、最初は少し抵抗があった方も、体験すると続けてもらえる傾向にあると感じてきた。「こどもがとても喜んでいる」とか「家で

は親子でこんなに思い切って遊べない。やってみたらとても楽しかった」など、保護者参加型の教室に対する抵抗の気持ちが薄れ、前向きになったというコメントを数多く耳にした。また、指導者から見ても、子供だけで遊ぶ時と、お父さんやお母さんと遊ぶときでは笑顔のはじけ方が違うと感じる。これは筆者に限らず、他の指導者からも聞くことができる。櫻木ら<sup>2)</sup>は「親子で楽しむ運動遊び」の実践が子供と保護者に与える影響について3~4歳児とその保護者を対象に調査を行い、運動能力の向上だけでなく、親子のかかわりの変化などもみられたと報告している。

そこで本研究では、4~5歳を対象とした保護者参加型のスポーツ遊び教室に参加した保護者のイメージが、参加前と参加後ではどのように変化するのかを明らかにするために調査を行った。

## 2. 方法

### (1) 調査対象

S大学のIキャンパスで開催されているキッズスク

ールにおいて、年中クラス（4～5歳を対象とした保護者参加型の運動遊び教室）に参加する保護者30名を対象とした。対象者はすべて2016年4月からアンケート実施の2017年2月まで参加していたものである。

(2)調査方法

キッズスクールの受付にてアンケート用紙を配布し、任意でご協力をお願いした。配布数30枚に対し、回収は25枚であった。

(3)アンケート内容

<p><b>問1 参加前のイメージ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても良さそう</li> <li>・ちょっと良さそう</li> <li>・ちょっと抵抗あり</li> <li>・抵抗あり</li> </ul> <p><b>問2 参加後のイメージ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても良かった</li> <li>・どちらかという良かった</li> <li>・どちらかという子供だけが良かった</li> <li>・子供だけの参加が良かった</li> </ul> <p><b>問3 スクールを通しての変化</b></p> <p><b>問3-1 一緒に遊ぶことが増えたか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増えた</li> <li>・やや増えた</li> <li>・やや減った</li> <li>・減った</li> </ul> <p><b>問3-2 子供との遊びが楽しかったか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかった</li> <li>・やや楽しかった</li> <li>・ややつらくなった</li> <li>・つらくなった</li> </ul> <p><b>問3-3 子供との遊び方が変わったか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変わった</li> <li>・やや変わった</li> <li>・あまり変わらない</li> <li>・変わらない</li> </ul> <p><b>問3-4 変化について具体的にあれば</b></p> <p>(自由記述式)</p>
---

3. 結果と考察

参加前と参加後のイメージをそれぞれ図1と図2に示す

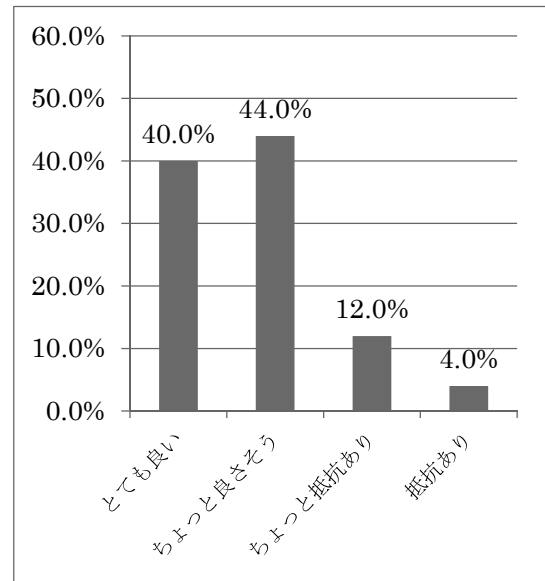


図1 参加前のイメージ(問1)

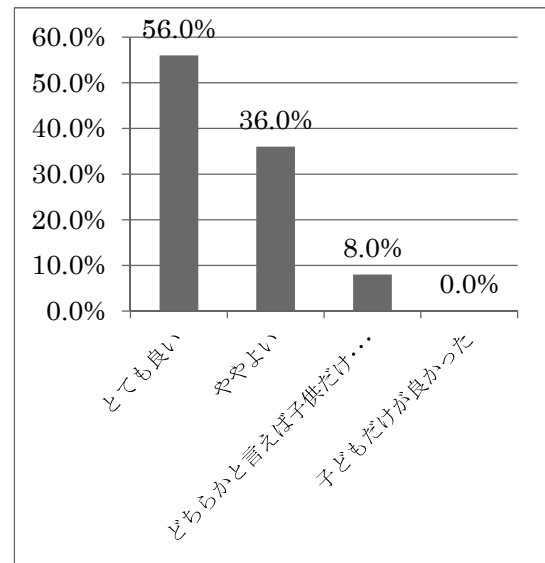


図2 参加後のイメージ(問2)

参加前には「抵抗あり」が4%、「やや抵抗あり」が12%と、保護者参加型の教室にネガティブなイメージを持つ保護者が16%いたが、参加後のネガティブな回答である「どちらかと言えば子供だけが良かった」は8%と4ポイント減少、「子供だけが良かった」に至っては0%となった。ちなみに参加前に「抵抗あり」と答えた保護者は参加後「とても良い」に変化していた。参加後にネガティブな回答に変化したのは2名のみであった。

また、「とても良い」と答えた保護者は参加前には

40%であったのに対し、参加後は 56%と 16 ポイント増えた。

さらに問 1 と問 2 の回答に差があるか検定を行った（ウィルコクソンの T 検定）結果を表 1 に示す。

n=25	中央値	順位総和
参加前のイメージ	3	354
参加後のイメージ	4	445
結果	$z=1.959$	$p<0.01$

表 1 参加前後でのイメージの差

表 1 の結果から、参加前と参加後では保護者のイメージにポジティブな方向へと有意な差があるとみなせることが明らかである。また、参加前にポジティブなイメージを持った保護者のみで比較すると有意差が生じないことから、保護者参加型のスポーツ遊び教室は、保護者参加型に対してもともと良さを感じていたり、関心のある保護者にはイメージの変化を生じさたりする効果はないものの、保護者参加型に対し抵抗感を持つ保護者には、ポジティブな方向への変化を生じさせる効果を持つと考えられる。

次に問 3 の「スクールを通しての変化について」の結果を示す。

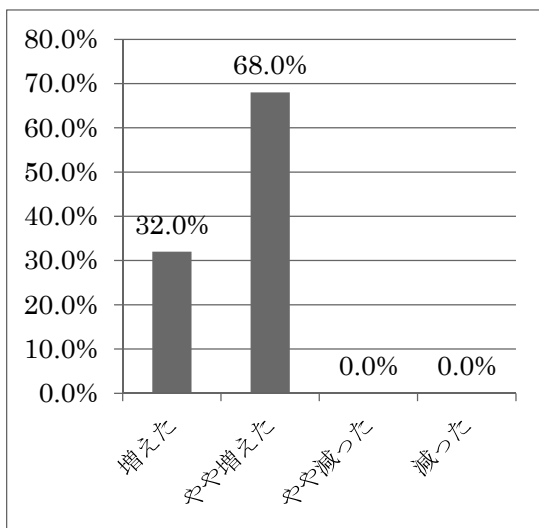


図 3 子供のとの遊びが増えたか(問 3-1)

スクールを通して、子供との遊びが増えたと全員が回答し、保護者がたくさん子供と遊べるようになったと実感しており、子供とのかかわりが時間的に

増えていることが推察される。保護者からは「親子で遊ぶことで家に帰ってから子供に『あれやろう、これやろう』と具体的に誘われるため遊びやすい」などの声が聞かれる。遊びを知らない保護者が増えたといわれる昨今、重要な効果だといえる。

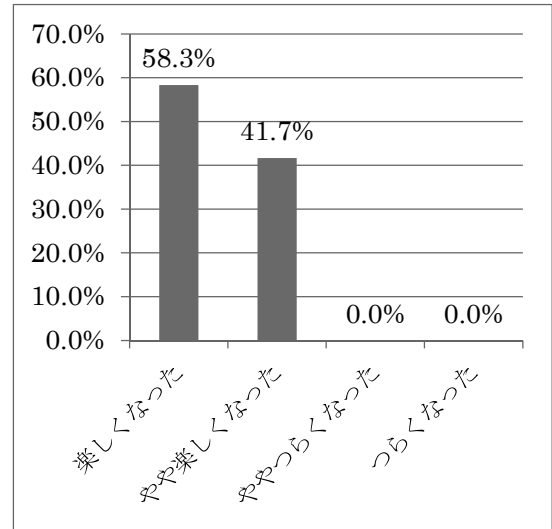


図 4 子供との遊びが楽しくなったか(問 3-2)

子供との遊びが楽しくなったかという設問に対しても全員がポジティブな回答となったが、これはやや設問に不備があったかもしれない。ネガティブな回答としては「あまり変わらない」「変わらない」の方が適切であったと思われる。しかしながら、「楽しくなった」が 58.3%もあり、保護者参加型の教室を通して、保護者と子供の心理的なかわりにも影響を及ぼしたことが示唆された。

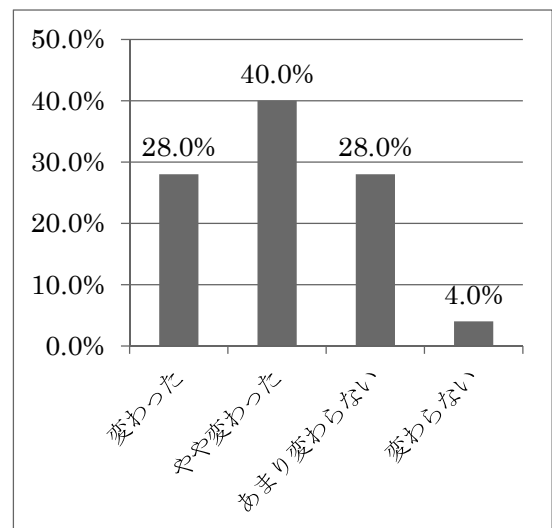


図 5 子供との遊び方が変わったか(問 3-3)

子供との遊び方に変化があったかの質問に対しては、32%が「あまり変わらない」か「変わらない」と回答したが、68%が「変わった」や「やや変わった」と回答し、具体的な遊び方にも影響を及ぼしていることがわかる。以上のことから、教室を通して「遊び方」を学ぶ保護者も多く、近年「遊び方を知らない親が増えてきた」と言われる現状を表していると同時に、その対策として保護者参加型の運動遊び教室は重要な役割を果たすと示唆された。

問 3-4 の「変化についての自由記述」へのコメントを以下にあげる。(原文ママ)

1. 家でもスクールで習ったことをやっています自分から行動するようになった気がします
2. スキンシップを心掛けるようになった
3. バランスが取れるようになりました
4. 身体を使って遊ぶ方法をたくさん教わりました
5. 身体を使っての遊び方が勉強になりました
6. いろいろな身体の動かす段階が分かった

上記コメントは以下のように分類することができる。

コメント 1: 子どもの積極性(非認知能力)の改善。

コメント 2: 日常での「子どもとのかかわり」の改善。

コメント 3: 「子どもの運動能力」の改善。

コメント 4~6: 「子どもとの遊び方の知識」の獲得。

また参考資料として、参加後の保護者参加型にネガティブなイメージを持っていた方のコメント(全2件)を、以下に載せておく。

1. 家でもスクールで習ったことをやっています自分から行動するようになった気がします
2. いつも楽しく参加させて頂き、貴重な親子の時間を作ることが出来ました。学生さんと思えないほど、子どもの扱いが上手で、大好きなお兄さん・お姉さんで来年も楽しみにしています!人見知りな娘ですが、場面でそっとしてくれたり話し掛けたり・・・短い時間の中でも本当に丁寧に関わってくれて嬉しかったです。

#### 4.まとめ

4~5 歳での保護者参加型のスポーツ遊び教室は抵抗感を持つ保護者もいるが、参加することによって、その抵抗感はほぼ改善されることが分かった。

また、保護者参加型への参加を通して保護者と子供の関係において、

1. 子どもとのかかわる時間
2. 子どもとの心理的なかかわり
3. 子どもとの具体的な遊び方に好影響をもたらすことが分かった。

言い換えれば、子供の発育発達にとって 4~5 歳であっても保護者参加型の遊び教室が重要な役割を果たすであろうことが明らかとなった。

#### 5.参考文献

- 1)寺田恭子:「親と子の外遊び」実践における成果と課題—3 年を経過した地域開放事業から—, プール学院大学研究紀要第 50 号, pp215-228, 2010
- 2)櫻木真智子ほか:「親子で楽しむ運動遊び」の実践が子供と保護者に与える影響に関する報告, 聖徳大学研究紀要第 25 号, pp143-151, 2014